自治体とスクラム組んで企業誘致を推進

北海道内陸型産業用地視察研修会　産業人クラブ主催

日刊工業新聞社が事務局を務める産業人クラブおよび日刊工業新聞社と中小企業基盤整備機構北海道支部は共催で、12月6、7の2日間、産業人クラブ会員企業を対象に北海道内陸型産業用地視察研修会を実施した。アイビーシステム（新潟市北区）、東成エレクトロビーム（東京都瑞穂町）、ハタノシステム（同目黒区）、ヒートロック工業（新潟市中央区）の経営者ら4人が参加。道外からの進出企業である石田鉄工（三重県木曽岬町）の夕張工場（夕張市）とアナセム（千葉県船橋市）の岩見沢事業所（岩見沢市）を訪問し、同支部が分譲する夕張緑陽団地（夕張市）、空知団地（美唄市、奈井江町）、道央栗沢団地（岩見沢市）を視察した。駆け足の視察研修ではあったが、4人には雪が降り始めた北海道の立地環境を肌身で感じていただいた。

夕張市の夕張緑陽団地

道東道開通、利便性増す

初日はまず夕張緑陽団地を視察。夕張市の鈴木直道市長は視察現場に駆け付け、「緑陽団地は現在、1平方㍍あたり200円台、300円台という安い価格設定で企業誘致を進めている。団地内ではないが、最近ではツムラが空港、港、高速道路インターチェンジに近いなどの地の利を評価し、漢方薬原料の生産拠点とすることを目的に進出した。また10月末には道東道が開通し、さらに立地条件がよくなった。ぜひ夕張も進出先の選択肢の一つにしていただきたい」とあいさつした。

次いで夕張市内の清水沢団地に立地する石田鉄工夕張工場を訪問。石田鉄工は道路側溝などに使う建設資材である各種グレーチングの製販を主力とし、1982年に夕張に進出した。平野忍夕張工場長代理は「道内にグレーチングの工場がなかったことから、道内市場での優位性確保を狙って進出。狙い通り道内で60―70％のシェアを持つことができた。夕張を選んだのは交通の利便性が理由。進出のメリットの一つは本社工場と多忙期がずれるため、年間を通して補完し合える体制ができたこと。昨日、本日とたまたま大雪だが、デメリットはやはり暖房、除雪といった冬季のコスト。時には輸送への影響もあるが、そこは顧客も理解してくれている。冬は機械の水抜き作業も必要。逆に夏、本当に暑いのは1週間くらい。冷房コストはかからない。近隣の高校生は地元志向が強く、求人で困ったことはない。札幌にいる学生も就職先は札幌市内だけでなく、周辺まで見ていると聞いている」と進出の経緯や立地環境などを説明。その後、一行は製造現場を見学した。

バスに乗り込みあいさつする鈴木夕張市長

美唄市と奈井江町の空知団地

雪冷房で大幅な節電効果

2日目は最初に美唄市と奈井江町にまたがる空知団地を視察した。美唄市の藤井英昭副市長は「当市は7月に選挙があり、初めて民間出身の市長が誕生した。市長の高橋幹夫は食品加工会社を営んでおり、企業経営をよく理解している。皆さまの要望に可能な限り対応する姿勢であることを伝えるように市長から言われた。ぜひ前向きな検討をお願いしたい」とあいさつし、村橋広基美唄市商工労働課主幹が「今日も雪が降っているが、当市は厄介ものの雪を利活用することに積極的に取り組んでいる。特にデータセンターの冷房に雪を用いると、冷房にかかる電気代は東京の20分の1で済むと試算している。自然災害が少ないこともメリット」と立地環境を説明した。

次いで奈井江町の秋葉秀祐ふるさと振興課課長補佐が「当町は美唄市と同様、道央自動車道、JR函館本線、国道12号が通っており、交通環境には恵まれている。町内には空知団地のほかに完売している奈井江工業団地がある。そこには北海道住電精密、北海道電機などが進出しており、空知管内自治体の工業製品出荷額では上位にいる」と農業だけでなく、比較的モノづくりも活発な状況をアピールした。

藤井美唄市副市長のあいさつを聞く参加者

岩見沢市の道央栗沢団地

札幌、空港へ好アクセス

続いて道央栗沢団地を視察した。同団地がある岩見沢市の坂内伸一企画財政部企業立地情報化推進担当次長は「当市は札幌や空港へのアクセスが非常によい。雪が多いのも特徴で、この冬すでに2㍍以上の雪が降った。ただ除雪体制がしっかりしており、雪で交通がまひすることはほとんどない。若い人材が比較的豊富におり、進出企業からは真面目な人が多いと評価されている。南空知は以前炭鉱で栄えた地域だが、炭鉱がすべて閉山となり人口がかなり減っている。その中で当市の人口の減り方は緩やかだ。積立金は道内自治体で札幌に次いで2位。財政の健全性は高い。当市には現在、約120社に進出いただいている」と同市の特徴を説明した。

最後に栗沢団地の一角に09年に進出したアナセム岩見沢事業所を訪問。同社は電源IC、磁気センサー、水晶発振器などの開発、製販を主力としている。松浦義昭社長が「私は岩見沢出身で、故郷に念願の工場をつくることができた。〝故郷に錦を飾る〟というのとは逆で、地元にいろいろと支援してもらっている。事業を継続させて雇用に貢献していきたい」とあいさつ。工場を見学後、同事業所の幹部から「雪は多いが、除雪が行き届いており、通勤できなかったことは1度もない。工場内を気温23度C、湿度40％に保つため、雪冷房を導入。夏の電気代は3分の1程度で済む。台風の被害がないのも、この地域のメリット」と立地環境の説明を受けた。

また松浦社長は「本社を置く船橋あたりではいい人材を集めるのが大変だが、道にはUターン人材も多く、人には苦労していない」と語った。

アナセム岩見沢事業所を見学する参加者

視察研修会を終えて

「自治体の〝人柄〟重視」

視察研修会の終了後、参加者から「今回の視察で、IT企業の誘致にけっこう積極的なことを知った。岩見沢、美唄ではIT企業誘致のためのインフラ整備が済んでいることに驚いた。これまでは中国、ベトナム、インドネシアなどオフショア開発ばかり考えていたが、北海道を見て言葉が通じてパスポートがいらないニアショア開発に興味がわいた」（若桑社長）、「率直に言って、今回訪問した自治体はやや危機意識が薄いのではないかと感じた。進出先を決める際に最も重視するのは（自治体の）〝人柄〟。福島県郡山市に進出した際もそうだった。坂内次長の話を聞いて、岩見沢の人柄のよさが伝わってきた」（上野副社長）、「土地柄から区画が広く、価格は安く設定されており、条件が合えば補助金なども利用でき、建設費用を低減できるのが大きな利点の一つと感じた。自治体や進出企業からメリット、デメリットなどの話を直接聞けて、大変有効な機会となった」（高須執行役員）、「価格は非常に魅力的。岩見沢は札幌からの通勤圏に入るため、人材を確保しやすいと感じた。自治体が除雪を行っているが、降雪量への不安は隠せない」（長谷川総務課長）と感想が寄せられた。

意見交換会

札幌市内のホテルで行われた意見交換会

意見交換会は参加者4人と東川敏文北海道経済産業局産業部長、宮地正巳中小機構北海道支部長らが出席し、札幌市内のホテルで行った。宮地支部長は「20年近く前に勤務した際の北海道は公共事業が盛んだった。今ピーク時から半減しているが、その分だけ経済全体が落ち込んだわけではない。一つは食品加工など地域の資源を活用した事業の活発化。二つ目はIT・バイオ産業の伸長。三つ目は大学や研究機関がイノベーションに積極的になってきたこと。この3点が北海道経済の新たな方向性だと感じている。皆さまには現場と人をよく見ていただき、北海道への理解を深めてもらいたい。それが北海道への進出につながればと思っている」とあいさつ。

東川部長は経済産業省の大連への進出を検討したが、08年秋のリーマン・ショックの影響もあり、進出には至らなかった。一方でアジアでの開発は品質に問題が生じるケースもあり、オフショアからニアショアに流れが変わりつつある。そんな中、人件費などの観点から北海道と沖縄に目を向けている」（若桑茂アイビーシステム社長）。

オフショアからニアショアへ

道経済に新たな方向性

「当社は電子ビームとレーザーによる特殊溶接に特化した受託加工を35年間行っている。国内の縮小に危機感を持ち、昨年6月にタイへの進出を検討し始めた。その矢先に大洪水が起きたため、国内投資へと急ハンドルを切った。事業がある程度順調なうちに次の手を打ちたいと考えており、北海道は投資先の選択肢の一つとなっている」（上野邦香東成エレクトロビーム副社長）。

「当社は自家発電システムの企画提案・施工・保守が主力。最近は環境意識の高まりなどを背景に太陽光発電、間伐材活用のバイオマス発電などにも力を入れている。バイオマスを本格展開するには燃料の調達やメンテナンスなどのための拠点が必要になることから、北海道も選択肢の一つとして地方拠点新設を検討している」（高須英寿ハタノシステム執行役員）。

「当社は土木建設に使われる資材、工法の研究開発を手がけている。橋梁用伸縮装置と舗装材料が2本柱。三つ目の柱にするため、道路の切削機械の研究開発を進めている。そのために必要となる試験スペースをどのように確保するかを検討中だ」（長谷川和史ヒートロック工業総務課長）と参加者4人が自社を紹介し、参加動機を述べた。

宮地支部長は「北海道は専門的な技術者の人件費も本当に安いのか」と質問。若桑社長は「人件費もさることながら、東京などで経験を積み、道にUターンしてきても専門職が見付からない技術者が多いと聞いている。そこにいい人材を確保するチャンスがあると思う」と答えた。

東川部長は「オフショアからニアショアへという話は道内IT企業にも同様の傾向があり、興味深い。中国を諦め、ベトナムに目を向けている企業もある。バイオマスについては、道では家畜のふん尿も燃料資源として注目されている」と指摘した。

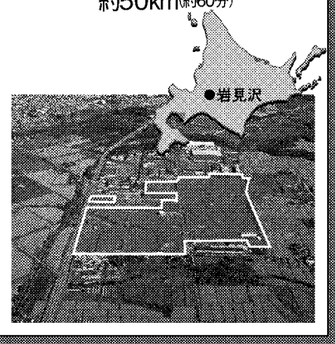
企業の躍進は北海道の大地から!!

北海道空知・釧路地域企業立地応援キャンペーン!

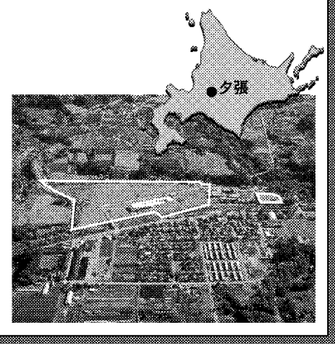
好条件の産業用地を、いまお求めやすい価格で分譲中!

空知団地（大規模プロジェクトに最適!）
◎所在地／美唄市、空知郡奈井江町
札幌まで60分
◎価格／690～1,070円/㎡　390～630円/㎡（大規模区画）
◎区画／0.3～1.0ha：20区画　1.0～6.0ha：13区画
（大規模）8.7ha、9.7ha、47.6ha
◎空港／新千歳空港：約102km（約75分）
◎港湾／石狩湾新港：約85km（約75分）

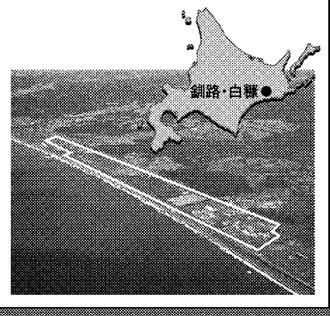
道央栗沢団地（物流施設に最適な立地!）
◎所在地／岩見沢市栗沢町由良
札幌まで40分
◎価格／1,290～1,960円/㎡
◎区画／0.5～1.0ha：9区画　1.0～5.0ha：10区画
◎空港／新千歳空港：約40km（約55分）
◎港湾／石狩湾新港：約50km（約60分）



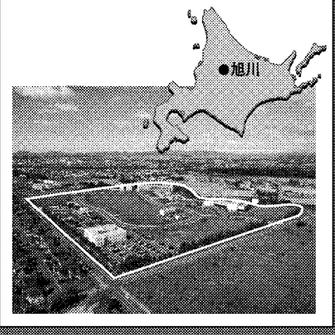
夕張緑陽団地（空港へ好アクセス!）
◎所在地／夕張市沼ノ沢
新千歳空港まで60分
◎価格／214～301円/㎡
◎区画／1.0～1.4ha：3区画
◎空港／新千歳空港：約52km（約60分）
◎港湾／苫小牧港：約57km（約65分）



釧路白糠団地（良質な水道水並みの工業用水!）
◎所在地／釧路市、白糠郡白糠町
釧路空港まで8分
◎価格／480～780円/㎡
◎区画／0.7～1.0ha：4区画　1.0～5.0ha：2区画
◎空港／釧路空港：約7km（約8分）
◎港湾／釧路西港：約11km（約15分）



旭川リサーチパーク（大雪山を望む緑豊かな研究開発拠点!）
◎所在地／旭川市緑が丘東
旭川空港まで15分
◎価格／4,530～5,100円/㎡
◎区画／0.3～1.0ha：8区画
◎空港／旭川空港：約8km（約15分）
◎港湾／留萌港：約80km（約90分）



※掲載の所要時間は車での移動を前提としたものです。※旭川リサーチパークはキャンペーン対象外となります。　※価格有効期限：キャンペーン対象4団地（平成24年3月31日）旭川リサーチパーク（平成24年6月30日）。

中小企業と地域振興をもっとサポート
中小機構 北海道
独立行政法人 中小企業基盤整備機構 北海道支部

■北海道支部産業用地課
〒060-0002 札幌市中央区北2条西1丁目1番地7
ORE札幌ビル6階　☎011-210-7473

■本部産業用地部
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル
☎03-5470-1599

ホームページ
http://www.smrj.go.jp/sy-navi/
産業用地ナビゲーター　検索

中小企業向けお役立ち最新情報は
情報を知る 情報を活かす　J-Net21 中小企業ビジネス支援サイト
http://j-net21.smrj.go.jp